

郷土文化財紹介

重要文化財シリーズ

<木像釈迦如来座像>

岐阜県指定の重要文化財である「木造釈迦如来座像」は、中津川市坂下大門自治会の護国山蔵田寺で手厚く安置管理されています。座像の高さは46.5cmでなかなか立派な木造座像です。昭和40年岐阜県指定にあたり鑑定をされた土屋常義文化財委員、花林和尚は室町時代後期の作であるとされました。蔵田寺のお祭りは毎年4月に行われており、その折には拝顔することができます。

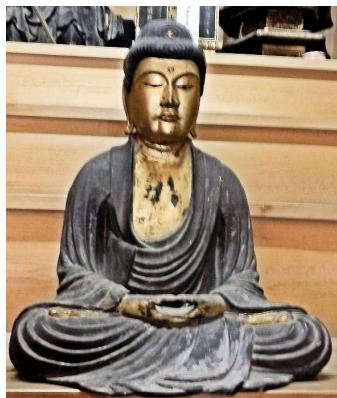


この釈迦如来座像は、かつて坂下村の行政寺であった萬歳山長昌寺の本尊であったとされるものです。苗木藩廃仏毀釈のおり下野法界寺に移されますが、その後縁あって蔵田寺に引き取られ現在に至るものです。

2016年11月26日奈良国立博物館名誉会員である松浦正昭氏が、坂下地区の県指定重要文化財を調査のため来坂されました。この機会にご一緒させていただくことができ、蔵田寺所有木造釈迦如来座像について少しお話を聞くことができました。以下松浦先生の感想の概略です。

「外見から思うことは、印相から釈迦如来と言われているが、足の組み方などから阿弥陀如来ではなかろうか。」「頭髪は螺髪ではなく繩目状総髪で、阿弥陀如来だとすると大変めずらしいものである。」「制作年

の記入はないが、<運慶作 文禄四(1596)年四月塗阿弥鑑>と墨書があり、割首工法である南北朝の制作で間違いないだろう。」「印相については、江戸期に修理されたように思われる。」



↑ 釈迦如来正面



↑ 釈迦如来背面



↑ 釈迦如来裏面



↑ 印相と足組



← 繩目状頭髪



↓ 裏面の墨書

